

はじめに

太古の昔から、先人たちは此の地に住み、川の恵みを得ながら、時には自然の猛威や時代に翻弄されながらも、知恵と工夫により力強く生きてきました。

そして、先人たちは、此の地において多くの文化を育て、今日まで伝えてくれました。

現代人のルーツはムラにあります。松河戸の区画整理が終了し、ムラ社会からマチ社会へと大きな変貌を遂げる中において、私たちは、この文化を未来に繋げるために、先人たちの歩んできた道を振り返ることが必要かと思えます。

先人、先輩の残した遺跡、文献、話をとりまとめ、「松河戸町の沿革」として紹介します。

※ これは、2020年11月に 松河戸遺跡保存会が発行した「松河戸町の沿革」の改訂版です。

2022年1月

松河戸文化科学探求隊 長谷川 浩
協力 松河戸遺跡保存会、松河戸区会

この本の作成にあたって

松河戸土地画整理事業の際に、縄文後期から弥生前期の遺跡から、環濠集落が発見され、春日井地域での稲作文化の発祥地であることが分かりました。

また、飛鳥時代の「条里制」地割の遺構がその際まで残っており、計画的な水田開発に基づいた畔・水田を現在まで利用してきました。

しかし、ポツンと最後まで残されていた田園風景はなくなり、区画整理が終わった今は、その形跡を見ることは難しくなりました。

松河戸には、「小野道風公」が此の地で生まれたという伝承があります。また、洪水に悩まされ「十五の森の悲話」が、村人により今まで受け継がれてきました。

戦国時代の終わりころには、この地域で「小牧長久手の戦い」が行われています。

これらの歴史的事柄は、この里を流れている庄内川とも大きく関係しており、先人たちは、この庄内川の恩恵を受け、時には川と戦いながら共に暮らしてきたことでしょう。

松河戸は古くからの美しい田園地帯でしたが、区画整理が終了し、道路は整備されて快適で住みやすい町へと変貌しました。

しかし、かつての村里において、先人が育ててきたムラ社会の文化が忘れ去られるのではないかと懸念されます。

先人、先輩方々が残された資料、研究・論文、地域の方の体験や話などを編集し、時代の流れに翻弄されながらも育てて来たムラ社会の文化を振り返り、この松河戸の里の歴史をみてみます。

現代人のルーツはムラにあります。この本は、ムラ人に暮らしに関わる事柄をムラ人の目線で、まずは松河戸の沿革(総論)を、そして各項目ごとに焦点を当て、最後にこの地に文化をもたらしてくれた庄内川の沿線(春日井市)を探訪することで、先人、先輩方々の足跡をたどっていくこととしました。

この改訂版は、2020年11月に松河戸遺跡保存会が発行した「松河戸町の沿革」の詳細版になります。

編集責任者 松河戸文化科学探求隊 長谷川 浩

(2020年度 松河戸遺跡保存会会長)

(2020年度松河戸町の沿革発行責任者)

《主な参考文献》

小野道風公遺跡 保存と顕彰のあゆみ	松河戸誌研究会	発行平成 20 年
写真と図表で見る松河戸	松河戸誌研究会	発行平成 28 年
春日井市史	春日井市	発行再販昭和 54 年
春日井市史 地区誌編 2	春日井市	発行昭和 60 年
春日井市史 現代編	春日井市	発行平成 6 年
春日井市近世村絵図集	春日井市	発行昭和 63 年
松河戸土地区画整理事業の歩み	春日井市都市整備課	発行平成 30 年
庄内川 春日井の文化を育んだ川	市制 50 周年記念行事実行委員会	発行平成 5 年
かすがいの人物	春日井市教育委員会	発行平成 7 年
続春日井の人物	春日井市教育委員会	発行平成 20 年
郷土誌かすがい 1 号～30 号	春日井市教育委員会	発行昭和 53 年～
松河戸遺跡展(平成 13 年度企画展)	春日井市・市教育委員会	発行平成 13 年
春日井の歴史物語	春日井郷土史研究会	発行昭和 61 年
書聖 小野道風	春日井市道風記念館	発行平成 3 年
本堂再建記念誌	巨獄山観音寺	発行平成元年
五十年の歩み 県下児童生徒席上揮毫大会	小野道風公遺跡顕彰会	発行昭和 61 年
小野小学校百年の歩み	開校百年記念実行委員会	発行平成 4 年
道風記念館の現状と将来 研究論文	松河戸町 斉木啓子	発行平成 5 年
子ども・地域の環境を守れ! 記録集	市民団体	発行平成 23 年
小野道風の風景	河地 清	発行令和 2 年
その他		